

**「農薬危害防止運動」** 期間 6月1日～9月30日

**農薬は 周りに配慮し 正しく使用!**



農薬を使う機会が増えるこの期間に、ラベルの確認、防護具着用、飛散防止対策実践、散布器具洗浄、農薬の適正保管などを改めて徹底し、農薬事故を防ぎましょう。

**農作業は安全に行いましょう**

「農作業は焦らず、急がず、慎重に!」を合い言葉に、農作業事故には注意してください。

- 作業時はキチンとした服装をする。
- ヘルメット、防護めがね等、安全装備を身につける。
- ほ場の出入り、あぜ越えに注意する。
- 移動走行時には、人や車に注意する。
- 点検・整備はエンジンを停止する。
- 取扱説明書・安全ラベルを理解する。
- 棚・支柱・針金等は目印等で目立たせる。
- できる限り一人での作業は行わない。

**山梨県普及センターだより**

編集&発行：山梨県農政部農業技術課  
〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6-1  
TEL:055-223-1619 FAX:055-223-1622  
<http://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/>  
E-mail:nougyo-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

No. 55  
令和4年6月20日発行

**ふじさんアジサイ 'あかね' 'ほくと' の生産拡大に向けて**

**農業革新支援スタッフ【花き】**

県では花き農家と連携し、富士山に似た円錐形の花が特徴的な「ふじさんアジサイ」の生産拡大を進めています。

「ふじさんアジサイ」とは、県の育成品種「あかね」「ほくと」に、一般品種の「ライムライト」を加えた3品種のいずれかを県内で生産し、販売した際の愛称です。

「あかね」は鮮やかな赤紫色、「ほくと」は美しい円錐型が特徴ですが、良品生産のためには夏の高温対策や剪定方法の確立など技術面の課題も多く、県では生産者と協力しながら、検討会や現地実証を重ねこれらの解決を図ってきました。



栽培技術研修 4/27 (あかね)



「ほくと」の初出荷時(鉢花)

「あかね」については、一昨年10月に切り花が大田市場などに初出荷され、また「ほくと」についても、昨年6月に鉢花を大田市場などに初出荷、それぞれメディアを通じて大きく紹介されました。

また、今年の栽培のスタートにあたり4月27日に研修会を開催し、剪定方法の確認等を行ったところです。県では、県の新たな特産化をめざし、今後も栽培技術の向上や、イベント等を通じた消費者の認知拡大を進め、さらなる生産拡大につなげます。

**オリジナル品種の普及に向けて**

**農業革新支援スタッフ【果樹】**

「ブラックキング」(「ピオーネ」×「山梨46号」)は、大粒で食味が優れる紫黒色の品種として、巨峰系品種の着色不良が問題となっている地域をはじめ、県内全域において導入が期待されており、生産量も年々増えています。



普及指導員、JA 営農指導員との合同現地研修会

そこで、5月19日果樹試験場内のほ場において、果樹を担当する普及指導員とJA営農指導員を対象とした研修会を開催し、房づくり、ジベレリン処理方法など開花期前後における管理のポイントについて目合わせを行いました。

これにより、現場での栽培指導が徹底され、生産量の増加と品質向上につながることを期待しています。

今後も、県オリジナル品種の普及に向け、指導者を対象とした研修会を開催します。



ブラックキング

**青色申告をして収入保険に加入しましょう!**

**すべての品目が補償の対象です**

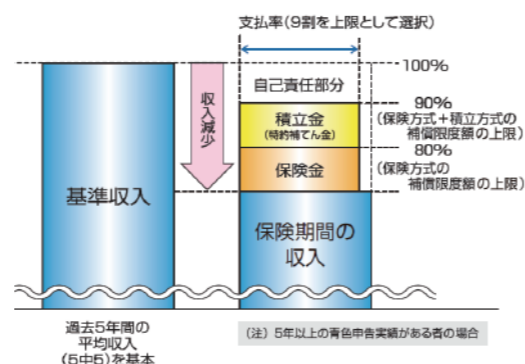
自らが生産した農産物の販売収入全体を補償の対象に、幅広いリスクから農業経営を守ります。



**収入保険のおすすめポイント**

- ① 基準収入の**8割以上の収入を補償!**
- ② 保険料等に**国の手厚い補助**があります!
- ③ 大きな損害発生時には、**無利子の「つなぎ融資」**が受けられます!

**収入保険のしくみ**



保険期間の収入が、基準収入の9割を下回った場合に、下回った額の9割までを補償します。

令和5年補償分の加入申請を受け付けています。加入申請時に青色申告実績が1年あれば加入できます。シミュレーションも簡単。お気軽にお問い合わせください。



山梨県農業共済組合

本 所 055-228-4711  
中央支所 0553-22-5056  
南アルプス支所 055-282-0443

北 部 支 所 0551-23-1111  
富 士 支 所 0554-45-6611  
ホームページに詳しく掲載→



## 中北地域普及センター

### 「就農希望者の安定的な就農に向けた支援」

中北地域は、各地域の特性を活かして果樹、野菜、水稻など、多種多様な農業生産が行われています。昨年、当センターでは91件の就農相談がありましたが、就農希望者の思い描く農業経営スタイルは千差万別です。就農支援制度も、研修段階や就農形態などに応じ、就農準備資金（年150万円、最大2年支給）、経営開始資金（年150万円、最大3年支給）、経営発展支援事業（設備投資など上限1000万円、3/4補助）、親元就農者経営安定支援事業など様々なものがあります。

就農希望者の多様なニーズに応じた支援を行うため、就農相談では、①将来の就農のビジョン、②所得目標、③現状の栽培に関する知識・技術などを中心に確認をしていきます。



篤農家（アグリマスター）とのマッチングによる研修の様子



就農相談の様子

本人の希望と現実のギャップが大きいときは、経営指標等を用い、所得目標を実現するために必要な経営規模と経費などを数字で理解してもらうことに加え、就農モデルとなり得る篤農家（アグリマスター）とのマッチングと研修の実施、補助事業の活用等により、就農希望者の安定的な就農を後押ししています。

## 峡東地域普及センター

### 新規就農者向け「果樹技術向上セミナー」を開催中！

峡東地域普及センターでは、栽培経験の浅い就農2年目以下の農業者や就農希望者を対象に「果樹技術向上セミナー」を開催しています。

本セミナーは、本県の主力果樹であるモモとブドウの2コースで構成し、生育期から冬季剪定までの主要管理について、実践を通じて技術習得できるよう年間11回の現地講習を計画しています。現地講習では、専門用語や管理のポイントを基礎から説明し、少人数に分かれて実習を行うなど、きめ細かな指導ができるようにしています。

また、実習場所は管内の早場地域を選定しているため、学んだことを自園で実践することも可能です。



ブドウの房づくり講習会

さらに、両コース共通の内容については、座学による全体講習とし、病害虫防除、土づくりなど栽培に必要な基礎知識に加え、経営管理に関する内容も含めて年間10回程度開催する予定です。

今年度は定員50名を超える申込みがあり、5月までに果樹の主要管理、モモの病害虫防除、モモの摘果、モモの袋かけ、ブドウの房づくりの講習会を実施しました。

今後も受講生同士の交流や情報提供の機会を増やし、随時フォローアップを行うことで、果樹産地を支える担い手として、一日も早く定着してもらえよう支援していきます。



果樹の主要管理講習会

## 峡南地域普及センター

### 茶の機能性成分向上を目指した取り組み

近年、茶に含まれるカテキン等の機能性成分が注目されており、その需要が高まっています。

峡南地域普及センターでは、地域の特産品である「南部茶」の高付加価値化や販路拡大を図るため、今年度から機能性成分向上のための栽培実証に取り組んでいます。

機能性成分の向上を図る方法として、収穫前の1～2週間程度、茶樹に遮光資材を直接被覆する栽培法が行われていることから、今まで県内で使用されることがない新商品のアルミシートによる被覆効果の検証を行っています。



被覆された茶葉の様子  
(左:アルミシート、中:慣行遮光シート、右:未被覆)

茶の新芽を直射日光から遮ることにより、旨みが増し、渋みが少ない消費者の嗜好に合わせたお茶を栽培することができます。今年度は被覆栽培実証のほかに、茶の有機栽培や遠隔カメラの導入による省力化技術の実証などの取り組みを行っています。



被覆栽培の様子(左:アルミシート、中:慣行遮光シート)

## 富士・東部地域普及センター

### GWレタスの生産拡大に向けた取り組み

中央自動車道上り線の談合坂サービスエリア内にある農産物直売所「談合坂SA やさい村」では、ゴールデンウィーク（GW）における出荷量の少なさや品目の偏りを解消するため、新たな品目として「GWレタス」の栽培に取り組んでいます。

栽培・販売ともに好調で、生産者の関心も高まっていますが、栽培を始めるにあたり、苗作りのための施設整備がネックとなっていたことから、普及センターでは、育苗ハウスを所有する生産者が苗を供給する「共同育苗システム」の確立を支援してきました。

その結果、1戸の生産者が2,200本の苗を作り、今年度は、新たに4戸が栽培を始めました。計6戸の生産者が栽培した「GWレタス」は、4月13日から5月23日まで出荷されました。

出荷すれば完売するほど需要が高く、生産者にも好評な「GWレタス」の栽培定着・生産拡大を図るため、普及センターでは、関係機関と連携しながら、引き続き、直売所の取り組みを支援していきます。



収穫期のGWレタス



育苗中のレタス苗